

第3部 国際秩序の変化や大衆化と私たち

第1章. 第一次世界大戦と日本の対応

① ドイツの挑戦とバルカン半島の緊張

<同盟対協商の対立>

- ▶ ビスマルクの平和外交……フランス孤立化

1873 三帝同盟 (独・墺・露) しかし墺と露はバルカン半島で対立

1882 三国同盟 (独・墺・伊) 墺と伊は「未回収のイタリア」で対立

1887 独露再保障条約

- ▶ 新皇帝 ヴィルヘルム2世 (1888-1918) の帝国主義政策

1890 ビスマルク、宰相辞任 → 独露再保障条約 更新されず

1891 露仏同盟

ドイツ …… **3 B 政策** (ベルリン・イスタンブル・バグダード)

オスマン帝国と友好関係を結び中東へ進出 (バグダード鉄道)

⇕

イギリス…… **3 C 政策** (カイロ・ケープタウン・カルカッタ)

アフリカ縦断政策 ⇔ フランスのアフリカ横断政策と衝突
(ファショダ事件)

- ▶ 日露戦争による国際情勢変化

1902 日英同盟……イギリスはロシアの南下を阻止するために日本と結ぶ

1904 英仏協商 ……両国の同盟国同士の日露戦争に関与せず、ドイツに備える

1907 英露協商 ……イギリスは日本に敗れ弱体化したロシアと結びドイツに備える

<ヨーロッパの火薬庫>

- ▶ バルカン半島 = 南スラヴ系民族が居住

パン・スラヴ主義 ……スラヴ民族の統合をめざす

⇔ 領内にスラヴ系民族を抱えるオスマン帝国やオーストリアと対立

パン・ゲルマン主義 ……本来はドイツ系民族の統一をめざす考え方

しかしパン・スラヴ主義に対抗し、ドイツ・オーストリアのバルカン半島に進出する際のスローガンとなった。→ 3 B 政策

- ▶ 青年トルコ革命 (1908) ……オスマン帝国内の政変

→ その混乱に乗じて

〔ブルガリア独立宣言
オーストリアが ボスニア・ヘルツェゴヴィナ 併合宣言

- ▶ バルカン戦争

1912 バルカン同盟 ……オスマン帝国に接する4国の同盟

盟主セルビア、モンテネグロ、ギリシア、ブルガリア

〃 第1次バルカン戦争……同盟がオスマン帝国を破り半島内領土を奪う

→ その領土配分で、同盟内でブルガリアと他の3国が対立

1913 第2次バルカン戦争でブルガリアが敗北

2度のバルカン戦争で敗戦国となったオスマン帝国とブルガリアは

ロシアを後ろ盾とするセルビアに対抗するため、ドイツに接近

② 総力戦となった第一次世界大戦

<サライエヴォの銃声>

1914. 6/28 サライエヴォ事件
ボスニア首都サライエヴォでセルビア人青年がオーストリア皇太子を暗殺
1914. 7/28 第一次世界大戦 開戦……オーストリアがセルビアに宣戦
- ・ 連合国……三国協商（英・仏・露）、セルビア、モンテネグロ、ギリシア、ルーマニア
日本（日英同盟）、イタリア（1915 三国同盟を裏切り連合国参戦）
- ⇕
- ・ 同盟国……ドイツ、オーストリア、オスマン・トルコ、ブルガリア

<第一次世界大戦の経過>

- ▶ 東部戦線……ドイツはロシア軍をタンネンベルクの戦で破りポーランド占領するも、膠着状態に
- ▶ 西部戦線……ドイツはマルヌの戦でフランスに前身を阻まれ、塹壕戦が続き膠着状態に
- ▶ 秘密外交……フランスのアルザス・ロレーヌ奪還、イタリアの「未回収のイタリア」併合 etc.
オスマン・トルコ帝国領について
 - 1915 フサイン・マクマホン協定（戦後のアラブ人独立約束）
 - 1916 サイクス・ピコ協定（英・仏・露による中東分割）
 - 1917 バルフォア宣言（パレスティナにユダヤ人国家建設）
→イギリスの二重外交（三枚舌外交）
- ▶ アメリカの参戦（1917年）……ドイツの無制限潜水艦作戦 開始をきっかけに
→アメリカの圧倒的経済力で連合国が優勢に

<第一次世界大戦と日本>

- ▶ 日本……日英同盟を根拠に連合国側に参戦
青島（ドイツ租借地、膠州湾）、ドイツ領南洋諸島を占領
- 1915 二十一箇条要求 ……中華民国・袁世凱政府に
ドイツの持っていた山東省權益を継承を承認させる
- 1917 石井・ランシング協定 ……日米間の協定、日本の特殊權益を承認
英・米は日本の勢力拡大を警戒するも大戦中は協調

<総力戦の特色>

- ▶ 総力戦 ……戦場の戦いのみならず、非戦闘員国民全体の経済的・政治的協力を要する
マス・メディアによる世論形成（→大衆操作）
女性も軍需産業の労働力に（→戦後の女性参政権）
- ▶ 新兵器の登場……飛行機、戦車、潜水艦、毒ガス
- ▶ 塹壕での長期戦……PTSDに苦しむ兵士

<1918年、大戦終結>

- 3月 ドイツはロシア・ソヴィエト政権と単独講和し、西部戦線で巻き返しを図るが…
- 11月 ドイツ革命……キール 軍港での水兵反乱 → ドイツ降伏
- ▶ ヨーロッパの没落
ドイツ・オーストリア・ロシアの3帝国が滅亡 → ロシアに社会主義政権成立
戦勝国のイギリス・フランスもダメージ大きい → アメリカ合衆国が世界一の大国に

③ ロシア革命と大戦の終結

<専制体制への批判>

- ▶ ロシア **第一革命** (1905 年、日露戦争中)

1905 血の日曜日事件 ……ペテルブルク冬宮前広場の民衆デモに軍が発砲
皇帝ニコライ 2 世、国会 (ドゥーマ) 開設を承認

- ▶ ロシアの政党

①. ロシア社会民主労働党 ……マルクス社会主義、設立直後に分裂

- ・ ボリシェヴィキ (多数派) ……レーニン中心、少数の革命家集団をめざす
- ・ メンシェヴィキ (少数派) ……広く大衆に基盤を置き、漸進的改革をめざす

②. 社会革命党 (エスエル) ……ナロードニキの流れをくむ、農民に基盤を置き革命めざす

③. 立憲民主党 (カデット) ……資本家・自由主義者が第一革命の際に結成。第一国会で第 1 党に

<1917年、ロシア革命>

- ▶ 二月革命 ……ロシア暦 2/26 (グレゴリ暦 3/8)、ペトログラード暴動

→ 皇帝ニコライ 2 世退位、ロマノフ朝滅亡

臨時共和政府樹立 ……立憲民主党、社会革命党中心 → 戦争続行

⇕

レーニン、亡命先のスイスから帰国、「四月テーゼ」発表

一切の権力を “ソヴィエト” へ!

↳ 労働者・農民による革命委員会 ← ボリシェヴィキの指導

- ▶ 十月革命 ……ロシア暦 10/25 (グレゴリ暦 11/7)、レーニンによるソヴィエト政権樹立

国内第 1 声『土地に関する布告』 ……教会・貴族・地主から土地を没収

対外第 1 声『平和に関する布告』 ……無併合・無賠償・民族自決の和平

しかし憲法制定議会選挙では社会革命党が第 1 党に

- ▶ 一党独裁へ (1918 年)

1 月 ボリシェヴィキ、武力で議会を解散し一党独裁

3 月 ブレスト・リトフスク条約 締結 ……ドイツと単独講和し戦争終結

ドイツにウクライナ割譲を認める → 11 月、ドイツ敗北で無効に

〃 ボリシェヴィキ、党名を 共産党 と改称

<社会主義政権の誕生>

- ▶ 対ソ干渉戦争 ……1918 年 5 月から、英・米・仏・日本による。日本史では “シベリア出兵”

⇕

英・米・仏は 1920 年撤兵、日本は 1922 年撤兵

- ▶ ソヴィエト政府の対抗策

・ コミンテルン 設立 ……世界各国の共産党を結集

・ 戦時共産主義 ……農民から作物を強制供出、日用品の配給制 etc.

→ のち、1921 年から経済の一部自由化 (NEP) で西欧との関係好転

1922 ソヴィエト社会主義共和国連邦 樹立

当初はロシア・ウクライナ・ベラルーシ・グルジアの 4 国連邦

1924 レーニン死去 → 後継者 スターリン による個人独裁へ

1928 計画経済 政策開始 (第一次 5 カ年計画)